



システム運用部会

昨年リニューアルされた AAJPS のホームページにいくつかの問題点が見つかったので、書誌と INDEX の見直し作業を担当し、修正案を理事会に提案しています。書誌については理事会で修正案が承認されました。INDEX についてもほぼ修正案が承認され、最終校正作業中です。作業終了後、ホームページを更新しますので、もうしばらくお待ちください。

広報部会

二月のニューズペーパーはお知らせ便VIとして金子隆一氏の追悼号とし、200 名余に配布致しました。また、制作を進めています AAJPS 紹介の冊子は最終的なプレゼンテーションまで進み、72 年以降の活動の報告待ちです。冊子の仕様の予定は
判型 / B5 横
頁数 / 全 24 頁
本紙 / アート 110kg

公害チーム

①小学館「日本写真大全」写真借用の件で公害写真選用の資料を提供。
②引き続き、公害アーカイブの為の資料を整理・収集中。

長崎チーム 「チーム長崎」小川 茂

<夏にはすべてのベタチェックがやっと終了します>
第二次長崎 (1972 年 10 月撮影) のベタチェックを昨年 10 月中旬より開始し、木内・小川・緒方・西垣・佐藤・田中・村川・猪塚・西村・矢野・宮部・河野らの約 250 本のチェックを 3 月下旬に終えました。
現在第四次長崎のベタチェックを開始し、夏頃に終え全てのベタチェックを終え、秋には 1 次～4 次の長崎のすべてのセレクト写真を更に絞り込んでいく道筋もようやく見えてきました。

現在 4 次ベタチェックと並行して、2 次ベタチェックの写真を手札大にして、ネット上で 2 次セレをかけています。本来なら皆で集まりセレクト合宿を行いたい所ですが、コロナ禍で先が見通せずネット上で行う事になりました。少しずつですが、長崎の全貌に近づきつつあります。

北海道 101 チーム

ネガフィルムのスキャニング作業の進捗は、昨年 12 月 11 日から本年 4 月 10 日までに 2 期 31 本、9 期 32 本。ベタチェックは 16 期 (10 人分 274 本) を終え、ZOOM によるセレクト例会を 4 月下旬に実施予定。

表紙 / とも紙
製本 / 中綴じ
制作部数 / 600
完成は今事業年内

データベース ワーキング部会

チームごとに進めているフィルム、プリント、資料のデジタルデータ目録を調査した結果、まちまちのフォーマットが使われていることが判明した。今後データを管理するにはフォーマットを統一する必要があるため、基準となる Excel フォーマット作成に取り組んだ。
これまでに Film 用の統一フォーマット案を策定、プリント用については付与する Keyword 表記ガイドラインの検討を続けている。また、資料編については各自が保有する資料一覧の報告を求め、フォーマットの検討に入る予定。
ハード構成についても具体的な調査を継続する。

状況キャンペーンチーム

広島大学の写真部が制作したスライド二本を大学の図書館の方に見てもらいました。当時撮影したネガ 500 本余は大学が当時の記録として受け入れてくれることになりました。データは写真部と大学が共有し、相互に写真のメタデータを調査し、それぞれの活動につなげていくこととなります。

足尾・谷中チーム

スキャニングが終了した 326 本のネガからコンタクトを作成し、そのうちの 408 枚をセレクトした。
今後は、文字起こしが終了した「足尾・谷中通信」などの資料を読み込みながら、被写体別のセレクトを続ける。そして第 1 回・第 2 回写真展で使用した写真も含んだ上で、第 3 回写真展を目指したい。次回の集りは 5 月末。

大阪撮影チーム

昨年 8 月からベタチェックを開始しました。その後作業が中断しています。作業再開に向けて進めていきたいと思っています。
先日、緒方恵子さん (旧姓青木 70 年金蘭短期大学入学) より第 3 次大阪撮影の個人写真集を預かりました。大阪撮影参加者の皆さん、ネガが手元にありましたら提供をお願いします。
井上克彦 (大阪経済大学 72 年入学) にご連絡ください。

ホームページがリニューアルされました
<https://aajps.or.jp>



'65 ~ '79 までの全日・491 のアーカイブ作りは着々と進んでいます。お手持ちのネガや資料の情報をお知らせください。
お問い合わせ等 : 277-0053 柏市酒井根 2-20-11 東 関 hig811@gmail.com

写真展「1976-1978 基町」を終えて

◇開催に至るまで◇

3 月 16 日(水)から 28 日(月)にかけて旧日本銀行広島支店一階展示場で写真展「1976-1978 基町」を開催しました。

開催に至るまで広島・基町チームは AAJPS 発足時 (2017 年) から試行錯誤を重ねてきました。これまでに発掘、収集した膨大なキャビネやベタの切り抜きを整理 (ネガは手に入りませんでした) し、最終的に 632 枚のプリントをセレクトしました。同時にどういう視点で発表するのか何度も議論した結果、1976 年から 1978 年の「基町を記録する会」の写真をもとめることにしました。(この写真群は 1976 年 8 月 6 日の撮影をする中で、1977 年に都市開発が最終段階を迎え「基町が消える」という事を伝え聞きました。そこで撮影チーム「基町を記録する会」を作り緊急出版を試みたのですが、実現出来ないまま未整理の状態に残されていたものです。)

かつて使おうとした「原爆スラムと呼ばれた基町が消える」をタイトルにしなかったのは、50 年を経て歴史的な事柄となってしまっており、1976 年当時の緊急性ではなく写真の記録性に軸足を置いたからです。

実際に開催に向けて動きだしてもコロナ禍の中で困難の連続でした。まずは集まること自体がむずかしく最初はスカイプでセレクトをしていましたが、伸ばしの検討は写真の伸ばしを担っていたいただいた東さん宅に何度も集まりコロナ対策をしながら進めました。さらに会場が広島である為、実際の展示をどうするか、会場のボード (88cm×180cm) に何枚展示するか、福岡さんが会場図面をひきそれで検討をしました。実際の会場では 33 枚のボードにレイアウトした写真と文章を展示する形となりました。最終的に広島のまん延防止がギリギリで解除されたことで写真展開催にこぎつけることができました。

◇大きな反響◇

来場者は 13 日間で 1794 名 (カウント漏れがあるため 1800 人は超えている) を数え、会場でお願ひしたアンケートは 605 枚、感想ノートにも 31 人の書き込みが寄せられました。一日の来場者が 100 人を超え、会場担当者は昼食も食べられないほどでした。

地元のテレビ新広島、広島テレビが夕方のニュースで紹介し、中国新聞も連休前に取り上げたことが奏功しましたが、大きな力は広島のさまざまな草の根ネットワークから頂きました。2 年前から関係のあった広島基町プロジェクトの方にも基町で積極的にチラシを配布していただきました。会場が改修のため休館する直前のイベントであったこと、ウクライナの侵略や基町中央公園でサッカー場建設が始まっているなど呼び水になったと思います。

来場される方は、ほとんどが一枚一枚の写真をじっくりと見て行かれました。そして多くの方達が溢れるように自分の記憶を喋り始めます。身内の方が被爆されている方も多く、喋りながら涙を流される方が何人もいました。一層の近代都市への変貌途上にある広島市の中で、45 年前に撮られた写真が失われていく記憶

を呼び起こし、写真との遭り取りの中でさまざまに確かめが行われているよう思われました。

親から行ってはいけないと言われた「基町・相生通り」について、ほとんどの人が存在は知っていても、そこにどういう人たちが暮らし、どんな営みがあったかを知らなかったと言います。ある人は、広島にずっと住んでいるのに基町のことをきちんと知らなかった自分が恥ずかしい、と話されました。また写真を見て、基町で生きてきた人たちはこんな環境でありながら堂々と生きている、みんな懸命に生きている、との感想をたくさんの方が書かれました。

◇様々な出会いの場◇

会場にはさまざまな方が来訪してくださいました。1965 年からの全日や 491 の関係者の方が北海道から名古屋、奈良、九州など遠方よりみえられ嬉しい再会がありました。

写真集『断層』の高橋章さん、名古屋市美術館竹葉さん、MEM ギャラリーの石田さん、広島で草の根ネットワークで発信をされているお医者さんの河野さん、被爆体験伝承者と被爆体験記朗読ボランティアの皆さん、広島公文書館の方、被爆した樹木の保存や平和活動をされている ANT-Hiroshima の渡部さん、基町小学校の先生、広島平和記念資料館の学芸員と館長、広島大学の先生と広島市立大学平和研究所の方、そしてかつて基町の市営住宅に住んでいた皆さん、基町の画家ガタロさん、修学旅行で訪れた方など、年齢も所属も違うたくさんの方が足を運んでくださいました。

◇AAJPS の写真とは◇

撮影した現場、撮らせていただいた方々のもとに写真を再び戻すことによって、その写真を見た方達から逆に私たちの写真が照らし出されることを強く感じました。それは私たちが対象としている写真や活動が、どのような問題意識を持ち具体的に何を撮り続けたのか、ということです。日本の戦後史の中で繁栄の影に隠されてきたものを見ようとしたこと。報道写真でも芸術写真でもなく、歴史や社会のひずみの淵に分け入り、虐げられた人たちとの共生を求める眼差しを持つ。AAJPS が世に残そうとする写真はそういうものではないかと 1800 人近い来場者から教えられた思いです。

改めて写真は世に出してこそ輝きを放つと思いました。
文責 今村ひろみ



